

A clay sculpture of a pink flamingo and a woman, both dressed in pink suits, standing against a light blue background. The flamingo is on the left, pointing its right index finger towards the center. The woman is on the right, holding a small object in her hands. The title text is overlaid on the center of the image.

どぼっエス

静岡県交通基盤部 present

開催結果報告

令和7年3月10日（火）「どぼフェス」を開催。

各地の「どぼくらぶ」の活動報告や、働き方改革としてのサマータイム導入、新たなインフラ経営管理の実践としての包括監理などの先進的な取組を紹介して機運醸成を図り、基調講演では、業界初の共創事例としてON-SITEXの取組からネットワーク拡大への手掛かりをつかみ、デミー博士の講座から土木を憧れの職業No.1にするための広報の勘所を学ぶことができました。

また、パネルディスカッションでは、各界を代表する登壇者により、「建設産業の未来について」共創をテーマに活発な議論が繰り広げられ、将来にわたり「持続可能な建設産業」を実現するためには、担い手不足等の建設産業が抱える諸課題の解決に向け、産官が共創（連携）し足並みを揃え取り組むことの重要性を会場全体で共有することができました。



「どぼフェス」プログラム

(1) 藤枝どぼくらぶ（藤枝市）

地域全体で取り組む建設業界の人材確保と育成 ～官民連携(オール藤枝)による取組～

(2) 遠州どぼくらぶ（遠州5市町） 遠州で”つながる”ミライの地域づくり

～遠州どぼくらぶの取組 磐田・袋井・掛川・菊川・森の挑戦と今後の展望～

(3) 「働き方改革」サマータイム導入

長田建設工業株式会社、静岡県下田土木事務所

(4) 産官共創によるインフラの包括管理 ～「持続可能なメンテナンス」の実現に向けて～

株式会社フジヤマ、静岡県建設政策課未来まちづくり室

(5) 計画策定報告

新インフラビジョン・新建設産業ビジョン 静岡県交通基盤部

(6) ON-SITEXが生み出す、現場発の共創 ― 静岡3社が実践するリアルな共創事例 ―

須山建設株式会社、木内建設株式会社、加和太建設株式会社

(7) 土木を憧れの職業No.1へ ～ワクワク土木土木(ドキドキ)大作戦～

プロデューサー！土木学者 デミー博士（出水 享）

(8) パネルディスカッション ～皆で考える 未来へ紡ぐ“土木LOVE”の輪～

静岡県交通基盤部 部長

高梨 記成



「静岡どぼくらぶ」は設立10年目を迎え、建設産業の未来を語り合う「どぼフェス」を開催。

これまでは建設産業の重要性や魅力を伝える広報やイベントに注力してきたが、今後は「共創のプラットフォーム」として、多様な主体と共に建設産業の課題改善・持続可能な産業づくりを目指す。

交通基盤部は「いっしょに、未来の地域づくり。」を理念に、安全安心で魅力ある地域づくりに取り組んでおり、自然災害の激甚化、情報技術の発展、担い手不足、資材価格高騰など厳しい環境変化に対応するため、県はインフラビジョンと建設産業ビジョンを見直し、関係者との共創で課題解決に努める方針を策定したところ。

「どぼフェス」は異分野の関係者が知見や経験を共有し、建設産業の未来に向けた情報共有と機運醸成の場となることを期待している。



遠州どぼくらぶ市町長応援メッセージ



袋井市長 大場 規之

「土木の重要性を伝え、若手活動を支援し、未来をより良くします。」

- 遠州どぼくらぶの若手による柔軟なアイデアと地域との連携で、建設産業の活性化を目指しています。
- この取り組みは袋井市が目指す「スマイルシティ」の実現にも繋がると感じています。
- 今後の活動の広がりを期待し、行政としても遠州どぼくらぶの活動を全面的に支援しています。

磐田市長 草地 博昭

「土木の重要性を伝え、若手活動を支援し、未来をより良くします。」

- 度重なる水害を受け、土木・建設業が地域の暮らしを守る重要な役割を果たしていることを強く実感しています。
- 若手の活動を支援し、子どもたちに土木の魅力を伝えている機会を増やすことで、地域の未来をより良くしていきたいと考えています。
- 土木業界が地域で輝き続けられるよう全力で応援します。





掛川市長 久保田 崇

「土木は地域を良くする誇り。仲間と共にさらに盛り上げます。」

- 土木の仕事は地域をより良くする誇り高いものです。
- 「掛川土木塾」などのイベントやSNSを通じて、多くの人に土木の魅力を発信しています。
- 今後も仲間を増やし遠州どぼくらぶの活動をさらに盛り上げていきます。

森町長 太田 康雄

「災害激甚化の中、安心安全を支える人材育成に期待。」

- 令和4年、5年の台風による大雨被害や毎年の豪雨による被災では、地元土木事業者が現場に迅速に駆けつけ地域の安全を守っています。
- 災害の激甚化・頻発化が進む今、遠州どぼくらぶの活動を通じて、地域の安心安全を支える優れた人材が育つことを大いに期待しています。



菊川市長 長谷川 寛彦

「土木は暮らしを支える大切な仕事。活動の価値を称賛し更なる発展を願う。」

- 静岡どぼくらぶ10年間の活動が、土木の意義や魅力を多くの人々に分かりやすく伝える良い機会となりました。
- 普段あまり意識されにくい土木ですが、私たちの暮らしを支える重要な存在です。その意義をわかりやすく伝えてきた皆さんの取り組みは大きな価値があります。
- 土木の魅力がさらに広がることを期待しています。頑張れ、土木ラブ！

地域全体で取り組む建設業界の人材確保と育成 ～官民連携（オール藤枝）による取組～



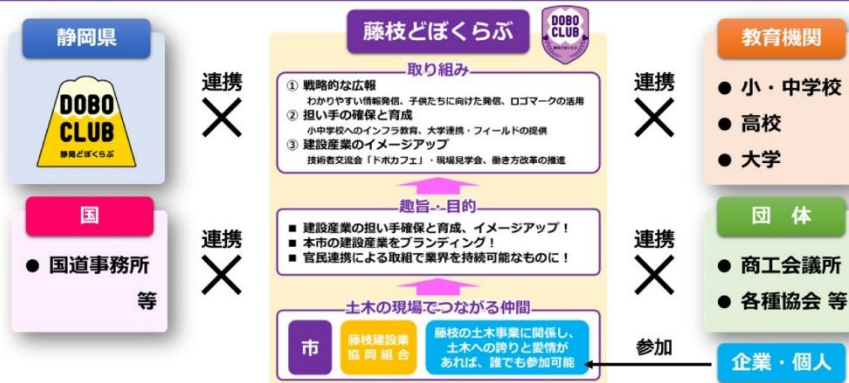
藤枝市 都市政策課	主任技師	太田 皓子
建設管理課	主任技師	佐々木 順隆
河川課	技師	中尾 智史

2 “人財”確保に向けた取組み “働き方改革”

将来への強い危機感を抱いた本市の技術部局では、
独自の **働き方改革プロジェクト** を立ち上げ＜H30＞

- 働きやすい“持続可能な職場づくり”
- 市の未来を担う“人財（技術職員）の確保”
- 土木建設業の“イメージアップ”

2 “人財”確保に向けた取組み “藤枝どぼくらぶ”



発表のメインメッセージ

藤枝市では建設業の人手不足と高齢化の課題に対し、行政と地域の建設企業が連携した「藤枝どぼくらぶ」を2022年に設立。人を「人財」として大切にし、持続可能な職場づくりや次世代担い手育成に積極的に取り組み、地域全体で建設業界の未来を支える。

具体的な要旨・ポイント

1. 建設業界の現状

- ・建設業就業者の減少と高齢化が進み、若手の確保が困難な状況。
- ・藤枝市の土木職員採用率は低く、公務員採用競争が激しい。

2. 働き方改革の推進と「人財」重視の姿勢

- ・「人材」ではなく「人財」と捉え、一人ひとりの能力と可能性を尊重。
- ・PCデュアルモニター導入など職場環境の改善や業務効率化。
- ・若手・女性職員の育成支援や意見交換の活性化。
- ・夜間・休日勤務負担軽減など、業務プロセスの多角的改革。

3. 「藤枝どぼくらぶ」の設立と活動

- ・官民連携プラットフォームとして地域建設業者、市役所、学校など多様な主体が参加。
- ・土木業界のイメージアップと地域連携強化を推進（SNSや地域メディアを活用した土木建設業の広報・PRなど）
- ・次世代を担う人財育成に向けた多様な取組みを実施（小中学生向けまちづくり講座など）



遠州で” つながる” ミライの地域づくり ～遠州どぼくらの取組

磐田・袋井・掛川・菊川・森の挑戦と今後の展望～

磐田市	道路河川課	技師	諏訪部 凱哉
袋井市	土木防災課	技師	田中 優一郎
掛川市	都市政策課	技師	竹原 翔汰
	土木防災課	技師補	駒形 七星
菊川市	都市計画課	主事	松下 岬
森町	建設課	技師	柴本 泰樹

“ 遠州どぼくらぶ ”

1 基本理念

遠州どぼくらぶは、県が推進する「静岡どぼくらぶ」の理念に基づき、遠州地域で独自の活動を展開します。インフラは日常の生活や経済活動を支え、観光資源にも成り得る地域固有の財産です。市民や産学官との共創 (Open innovation) でみらいの地域づくりを支えます。

※ 「静岡どぼくらぶ」は、建設産業の将来、地域の未来をともに考え現場で繋がる広いサークル(仲間)です。建設産業に関わる人みんながチームの一角という意識を持ち、この仕事に誇りを持ち、誇を誇って仕事をすることを「静岡どぼくらぶ」がサポートします。
みんなの笑顔をつくり、ダイナミックな現場から建設産業の表裏を訴えかけるのが大切な役割です。(静岡どぼくらぶ～理念～ 抜粋)

2 行動指針

戦略的な広報・PR
多くの人に知ってもらいたい
・誰もがわかりやすい興味をそそる情報発信

建設産業のイメージアップ
魅力や役割を再認識してもらいたい
・親子見学会やイベントの開催
・建設産業における働き方改革の推進

担い手の確保・育成
なりた職業No.1を目指す！
・小中高校への出前講座や現場見学会の開催

3 会員

県下初

遠州どぼくらぶは、遠州地域の産学官が一体となって新たな取組を開始します。今後は、遠州地域の市町からの新規参入の申し入れなどにも対応すると共に、工業高校との連携など共創の輪を広げて参ります。

産

袋井建設業協会
県測量設計業協会 西郡支部
県建設コンサルタント協会 西郡地区

- 現場、職場の状況
- 職人さんの声
- 会社の様子
- 重機械の紹介
- 地元愛 etc...

学

静岡理工科大学

- 大学の授業や研究室の紹介
- 大学主催イベントの情報
- 大学の様子
- 学生の日常 etc...

官

5市町連携 (磐田・掛川・袋井・菊川・森町)

- 行政界を超えて建設産業の情勢を発信
- 公務員の仕事や日常などを紹介



発表のメインメッセージ

磐田市、袋井市、掛川市、菊川市、森町の5市町が官民連携で結成した「遠州どぼくら」は、建設業のイメージアップと次世代人材育成に取り組む。共創の輪を拡げながら、地域の社会インフラ維持・活性化と、安全安心な暮らしの基盤づくりを推進する。

具体的な要旨・ポイント

1. 地域の土木事業に係る広報・PRの強化

- ・各市町がInstagramを活用し、週1回の建設現場の写真や職員の声を発信。
- ・土木・建築の仕事の地域社会における役割や魅力を「見える化」しイメージアップを図る。

2. 建設産業への担い手確保に向けた学校連携プロジェクト

- ・掛川市「掛川土木塾」など子ども向け体験型イベントを展開。
- ・袋井市「海プロフェスカ」や磐田市「ラボフェスタ」では、親子や地域住民が参加し土木の魅力に触れる機会を創出。

3. 地域の共創の輪を拡げる産学官連携

- ・静岡理工科大学、自治体、建設業者、国土交通省が連携し、地域課題の解決や技術革新を推進。
- ・草刈り、路面清掃の最新技術を協働で検証。効率的・持続可能な社会インフラ管理を目指す。

4. 地域固有の資源を活用した持続可能な地域づくり

- ・社会インフラを地域の観光資源や活性化に結びつけ、地域全体を元気にする視点で活動。
- ・「共創の輪」を広げ、地域人材の育成と定着に積極的に取り組む。



「働き方改革」サマータイム導入



長田建設工業株式会社

代表取締役社長 長田 芳郎

静岡県下田土木事務所

所長

菅沼 忠嗣

「地域に適した労働環境の整備」

令和7年、7月中旬～9月末までのサマータイム導入工
事を実施

静岡県下田土木事務所様発注

南伊豆町内 湊北沢砂防工事 渓流保全工にて実施

労働時間 5時～14時

7時～ 30分

9時～10時 1時間（昼食）

13時～ 30分

合計2時間の休憩含む8時間



酷暑の夏場は外での仕事はやめて宿泊業
や海の家等の観光関連の仕事へシフトする
建設業は熱中症等のリスク減
観光業は人手不足による収益低下の減

南伊豆町は夏は海水浴が盛んであるが
ホテル、旅館等は慢性的な人手不足に
悩まされており猫の手も借りたいくらい
人手が足りず部屋を全開放できないことも



発表のメインメッセージ

静岡県南伊豆地域の少子高齢化と過酷な夏季労働環境に対応し、長田建設工業(株)と静岡県下田土木事務所は連携してサマertime制度を導入。朝早くからの勤務にシフトすることで熱中症リスクを軽減し、働く人の健康と作業効率の向上を目指している。

具体的な要旨・ポイント

1. 地域の特徴

- ・南伊豆地域は人口7,000人、高齢者54%の過疎地域。
- ・建設業の担い手不足が深刻。

2. サマertime制度導入の背景

- ・夏季の猛暑で建設作業が危険な環境となり、熱中症のリスクが高まっている。
- ・労働時間を早朝からにシフトすることで身体への負担軽減が期待される。

3. 実施状況、効果と課題

- ・始業時間を早めて作業終了を午後2時頃に設定。近隣住民への丁寧な説明と理解を得て実施。
- ・作業員アンケートで「体感的に涼しく快適」「熱中症リスクの低減」を評価。
- ・生活リズムの変化や作業時間調整など一部課題も確認。今後の改善に活かす。

4. 働き方改革と地域活性化への期待

- ・労働環境改善は建設業の担い手確保に寄与し、地域の持続可能な発展につながる。
- ・今後も地域特性に応じた柔軟な働き方の模索を継続する。

産官共創によるインフラの包括管理 ～「持続可能なメンテナンス」の実現に向けて～



株式会社フジヤマ

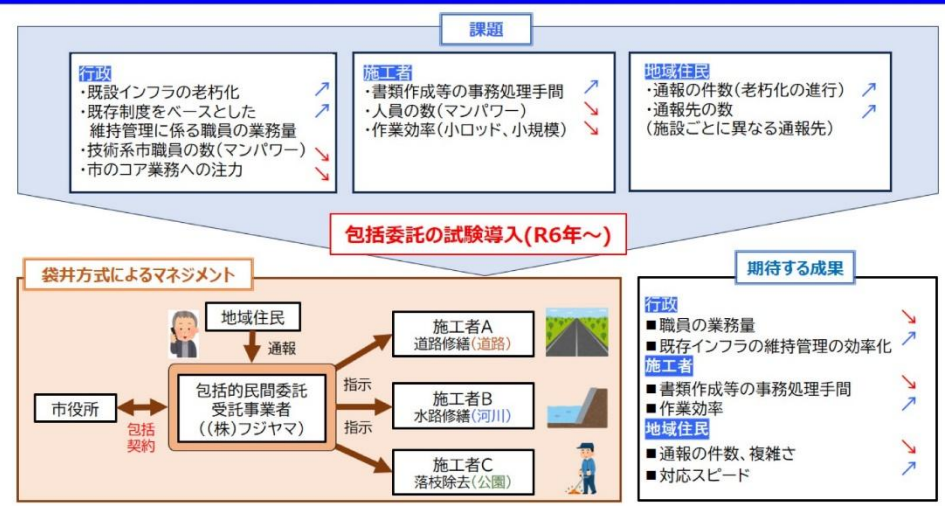
防災・環境保全部 課長補佐 中戸川 達矢

静岡県建設政策課

未来まちづくり室 室長 平井 武志

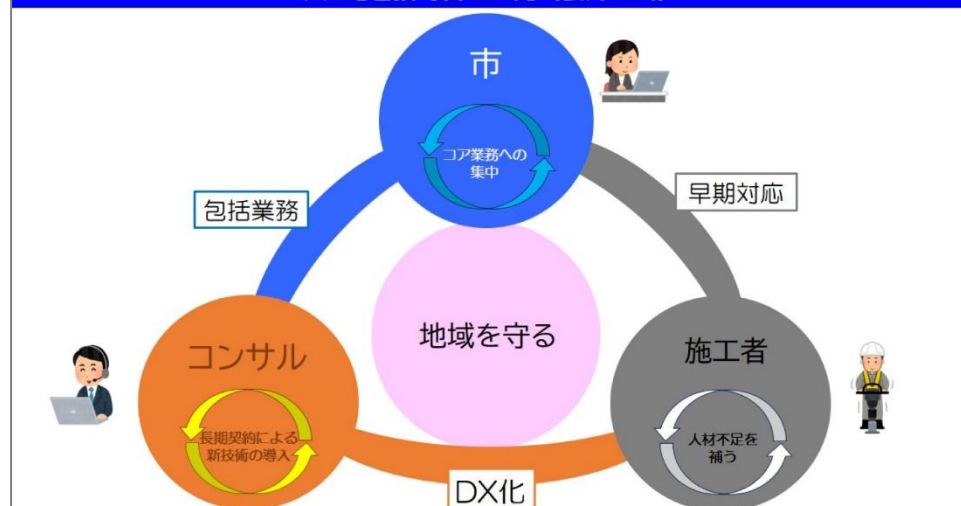
インフラメンテナンスの包括的民間委託業務（袋井方式）について

9



共創と包括的管理委託（袋井方式）

15



発表のメインメッセージ

袋井市ではインフラの老朽化が進む中、職員の負担増加や施工者の人材不足の課題を解決するため、産官連携による包括的な管理体制を構築。DXの活用と連携強化により業務効率化と迅速対応を実現し、持続可能で効率的な地域インフラ管理を推進している。

具体的な要旨・ポイント

1. 背景と課題

- ・インフラの老朽化に伴い市職員の作業負担と遠距離移動が増加。
- ・施工者は点検作業の効率が悪く、担い手不足が進行。
- ・住民からは通報先の不明確さによる不便の声も。

2. 包括管理制度「袋井方式」の導入

- ・市役所と民間会社（(株)フジヤマ）が包括契約し、施工業務を一括委託。
- ・通報受付から現地確認、修繕指示、報告、請求までをデジタル化し一元管理。

3. 導入効果

- ・半年で200件の修繕対応。施工者の業務時間を約440時間、職員の従事時間を約1,395時間削減。
- ・DX活用で効率的、効果的な維持修繕が可能。市民サービス向上。デジタル化により書類ゼロ。

4. 今後の展望

- ・業務の拡大：修繕以外に路面清掃やパトロール業務への連携拡大を検討。
- ・エリアの拡大：近隣自治体、県との連携強化を図りスケールメリット創出。
- ・システムの導入：AI技術や通報手段導入など更なるDX活用を推進。



ON-SITEXが生み出す、現場発の共創 — 静岡3社が実践するリアルな共創事例 —

須山建設株式会社

環境ブロック 管理グループ チームリーダー 清水 一博

木内建設株式会社 土木部 課長 大池 正之

加和太建設株式会社 DX推進室 幸田 紗邪



発表のメインメッセージ

須山建設(株)、木内建設(株)、加和太建設(株)の3社は、若手技術者の育成と現場力の強化を目的に「ON-SITEX」を活用した現場発の共創活動を推進。ICTや新技術導入、技術者交流を通じて、施工技術の革新と業界全体の持続的発展を目指している。

具体的な要旨・ポイント

1. ON-SITEXとは

- ・建設業とスタートアップの共創による課題解決を目指す「人・情報が集まるコミュニティ」
- ・現在は47都道府県118社のコミュニティに発展

2. 人材育成の取り組み

- ・他社の「業務報告書（ブルームシート）」を活用し、現場経験を可視化し成長を支援
- ・3社が新入社員合同宿泊研修で交流・定着を支援

3. ON-SITEXによる共創の実践

- ・3社間で技術者交流会を開催し、若手から経営層まで幅広く意見交換
- ・経営層も巻き込み、課題認識と解決に向けた連携強化
- ・AI技術の活用、ICT推進で現場の効率化を推進

4. 今後の展望

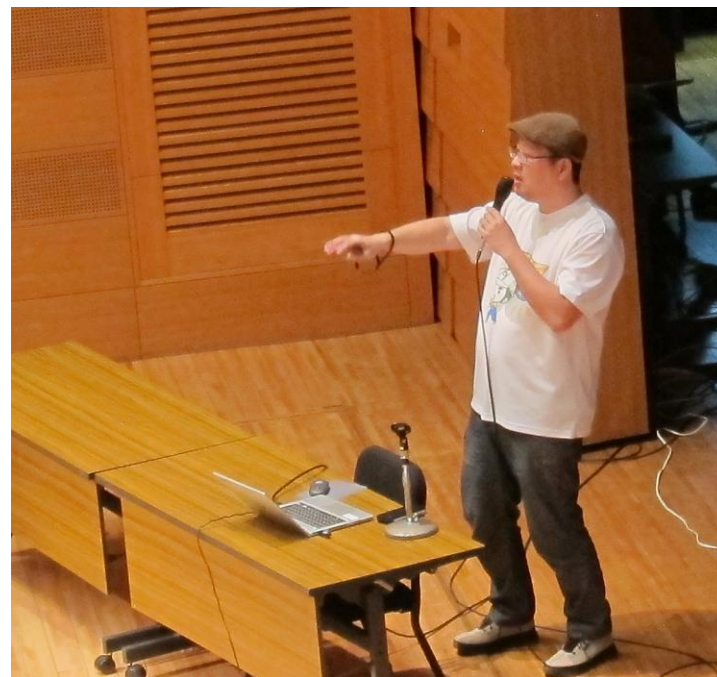
- ・業界横断の交流と技術者の働き方改革を推進
- ・先端技術の積極利用を通じて持続的な業界発展を目指す



土木を憧れの職業No.1へ ～ワクワク土木土木(ドキドキ)大作戦～

プロデューサー！土木学者 デミー博士（出水 享）

土木を憧れの
職業No.1へ



講演のメインメッセージ

土木は社会インフラを支える重要な職業だが、人手不足や高齢化、そして若い世代の興味・憧れの低下という課題が深刻。この問題を解決するためには、専門用語を使わない分かりやすい広報活動、イベントやSNSの活用、地域行政や業界一体のチーム連携、そして安全・働き方改革によるイメージ改善が不可欠。

若者や市民に土木の魅力を伝え、憧れの職業として選ばれる社会を目指す「ワクワク土木土木大作戦」を推進する。

具体的な要旨・ポイント

1. 現状と課題

- ・ 高齢化と若年層減少による人手不足
- ・ 土木が子どもたちに憧れられていない

2. 広報・イベント

- ・ 専門用語を避けわかりやすく説明
- ・ 参加者に特別感を与える工夫
- ・ 継続的なメディア露出が効果的

3. チーム連携

- ・ 行政・企業・地域が一体で推進
- ・ 地域を超えた連携も重要

4. イメージ改善・安全対策

- ・ 危険イメージの払拭
- ・ 安全教育と働き方改革推進

5. SNSの活用

- ・ デジタル発信で若者にリーチ
- ・ 計画的・効果的な情報発信
- ・ 継続的なメディア露出が効果的

6. 若手育成

- ・ 体験教育の実施
- ・ 行政巻き込みの広範囲な理解促進

～ 皆で考える 未来へ紡ぐ “土木LOVE” の輪 ～



一般社団法人静岡県建設コンサルタント協会 会長 藤山 義修
一般社団法人静岡県建設業協会 理事 中村 嘉宏
加和太建設株式会社 代表取締役 河田 亮一
プロデューサー！土木学者 デミー博士 (出水 享)
静岡県下田土木事務所 所長 菅沼 忠嗣
静岡県交通基盤部 参与 森本 哲生



どぼろえ

静岡県交通基盤部 present

パネルディスカッションでのテーマ

- 持続可能な建設産業の実現に向けた課題
- 建設産業の担い手を確保するためには？
- 「土木を憧れの職業No.1へ」 魅力ある職業にするためには？
- 現場環境を改善してカッコイイ職場にするためには？
- 「あなたとまちが、もっと輝くほうへ。」 建設産業にとっての地域貢献とは？
- まちづくりに地域のあらゆる人々が関わる「体制づくり」に必要なことは？
- 「地域のことは地域で守る」ために持続可能な手法は？





一般社団法人 静岡県建設コンサルタンツ協会 会長 藤山 義修

発言要旨

人口減少という社会課題の中での土木の役割

我々土木は地域の守り手として、なくてはならない存在である。地域インフラと住民の安全を守るため、担い手の減少は最大の課題だ。将来的にもこれを放置すれば維持管理が困難になる。

包括管理・群マネの取り組みについて

袋井市の取組として、複数のインフラや自治体を『群』として包括的に管理する『群マネ』に着目。これにより、点検・修繕の効率化と質の向上が期待できる。フジヤマ（株）が業務を受注し、実績を積んでいるが、発注の仕組みや業務範囲の明確化は今後の課題。

今後の展望

こうした効率的な管理手法を全国へ広げ、行政・民間・地域が連携して持続可能な建設産業をつくる。地域の守り手として土木の存在価値をさらに高めたい。



一般社団法人静岡県建設業協会 理事

中村 嘉宏

発言要旨

馬込川災害復旧工事のデジタル工事銘板の広報効果

若手技術者の活躍や笑顔が動画で見える化され、多くの方に土木の誇りとやりがい伝えるツールになっている。現場内部の緊張感と温かさが伝わり好評だ。

オールキャストイング形式の意義

調査・測量・設計など多様な技術者が登場することで、土木は多職種協働の総合力であることを示せる。動画を通じ新たな担い手獲得や業界の魅力向上に役立っている。

包括管理・群マネに対する懸念

新しい管理体制は効率的だが、業務の分担や責任範囲が不明確なことがゼネコン業界内での不安材料。業界内で課題を共有し、解決へ向けて取り組む必要がある。

持続可能な建設業界目指す姿勢

地域と連携しつつ、透明性の高い管理体制構築を進め、持続可能な建設業に貢献していく。



加和太建設株式会社 代表取締役

河田 亮一

発言要旨

求人コンセプトと社員の想い

『あなたとまちが、もっと輝くほうへ。』という言葉に込めた、地域貢献と社員の誇りを共有。地域の未来を支える一員として社員が意識をもって働いている。

ネットワーク構築のコツ

行政の縦割り構造を超え、職場や組織間の壁を取り払うためには、目的共有・相互理解・柔軟な態度が重要。ON SITE Xのような共創の場づくりが大きな鍵。

DOBO CLUBでの活動展望

情報共有の継続、定期的な交流、信頼関係構築に注力し、共創の輪を継続的に拡大していくことを目指す。

地域建設業の未来

近い将来、地域を守る担い手は、建設業という業態ではなくなるかもしれない。新しい形が求められていると考える。



プロデューサー！土木学者

デミー博士（出水 享）

発言要旨

DOBO CLUBの広報拡大と共創プラットフォームとしての役割

10年間の広報活動から一歩進み、産官学が連携する共創のプラットフォームを構築。地域住民、子どもたち、専門家が一体となり、土木の価値や役割を多角的に伝えている。

社会貢献活動の広がり

軍艦島の保存や防災減災教育、地域創生活動もDOBO CLUBの重要な活動領域。土木の範囲を超え地域課題解決に貢献できるよう、活動領域を拡大中。

共創の輪拡大の展望

多様な主体が参画しやすい環境づくりと情報発信の工夫を続け、地域とともに持続可能な建設業界づくりを目指す。

「静岡どぼくらぶ」を共創プラットフォームとして運用するには、官主導では実現・継続が困難。そのため、建設業界や地域の学生等を運営に加えるなど、産学官が共創することで、「どぼフェス」が継続され発展し、共創を支援する体制が強化される。



静岡県下田土木事務所 所長

菅沼 忠嗣

発言要旨

伊豆地域におけるサマータイム導入

熱暑対策として午前中の作業時間を早めるサマータイムを導入。労働環境が大幅に改善され、作業効率も上がった。労働者の健康も守れている。

取組の効果と課題

効果は大きいですが、地域や社会の理解促進や制度面での調整が必要。今後は多様な地域での展開を視野に入れ、柔軟かつ地域特性に合わせたアプローチを進める。

将来への期待

群マネや包括管理とも連携し、効率性の向上だけでなく、働きやすい現場環境を作ることで人材確保と定着を図る。



静岡県交通基盤部 参与

森本 哲生

発言要旨

新しい「4 K」への挑戦

従来の『きつい・汚い・危険（3K）』から、『給料・休暇・希望・カッコいい（新4K）』への変革をICTや新技術で推進。

快適トイレ設置の事例

女性技術者の働きやすさ向上だけでなく、災害時の避難所機能としても有効。現場環境の改善は人材多様化や地域貢献の両面で意義が大きい。」

地域まちづくりとの連携

地域の特性やニーズに合わせて最新技術や環境改善を進め、土木の社会的役割と魅力を高める。多様な関係者と協働して持続可能なまちづくりを目指す。」



静岡県交通基盤部 理事

羽田 充明

「静岡どぼくらぶ」10年目のスタートとなる「どぼフェス」を開催。

講演は、未来に向けた建設産業の在り方について、会場全体で共有し、考える時間となりました。

パネルディスカッションでは、建設産業の未来への熱い思いや深い愛情が感じられました。特に、これからの「どぼくらぶ」が目指す、産学官一体となった共創の重要性、そして地域とともに持続可能な建設産業を創造していくというビジョンが、皆様と共有できたことを大変嬉しく思います。

本日得られた知見や交流が、それぞれの現場や組織において、具体的な行動へと繋がり、建設産業のさらなる発展、そして地域社会の豊かな未来へと繋がっていくことを期待しております。

この「どぼフェス」が、単なるイベントに留まらず、今後の「静岡どぼくらぶ」の活動を力強く推進する原動力となることを確信しました。